



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
 JR新宿ビル13F 〒151-8512
 電話 03-3375-5740(代)
 2020年7月20日 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 第712号 月1回発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費を含む)



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>



申1号

「第39回定期大会発言に基づく申し入れ」を提出!

「安全・健康・ゆとり・働きがい」のさらなる向上を目指して、「新生JR東労組運動宣言」のもと職場活動を積み重ねていこう!

これから夏本番を迎えます。
 コロナ禍でマスク着用が必須ですが、
 熱中症にならないように気を付けて、
 体調管理をしっかりといきましょう!

JR東労組は、第39回定期大会を6月22日に開催しました。そして、活発な代議員の発言により方針に肉付けされ、全ての議事が満場一致で確認されました。

大会では、組織強化・拡大の実践や組織再建のたたい、「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーションの実施について」に関して発生している課題、新たな休業制度の提案への危機感、コロナ禍における働き方などについて発言がありました。その発言を受け、申1号「第39回定期大会発言に基づく申し入れ」を7月3日に提出しました。

1. 「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーションの実施」以降、将来設計や生活環境を踏まえて描いたキャリアプランに対して、一部納得感のない異動が発生していることから、労使議論を踏まえた運用とし、働きがいが向上する制度とすること。
2. 新型コロナウイルス感染症によって急激に社会が変化する中において「変革2027」と働き方改革、及び社員と家族の幸福をどのように実現するのか会社の考えを明らかにすること。

申し入れ項目

大会発言を基に中央本部として問題意識を整理し、2項目にまとめ、申1号として申し入れました。

「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーションの実施について働きがいが向上する制度へ」

本部―本社間の団体交渉では「任用の基準に留まらず社員の希望を把握する」「納得感の施策のポイントである」など労使で真摯な議論を積み上げ、認識の一致を図り議事録確認を締結してきました。よって、組合員・社員の働きがいが向上する運用は出発点として重要であると考えます。今後は、安全・サービスレベルの向上、主体性を持って業務に挑戦できる環境の実現などの検証をしていく必要があります。

職場からは、現段階において、描いたキャリアプランに踏まえた一定程度の納得感ある異動が行われているとの声がある一方、「自ら描いたキャリアが実現しない」「希望が叶わない明確な理由や異動の理由が示されない」「納得感が高まる制度となっていない」など、「新たなジョブローテーションの実施」に真剣に向き合ってきたが故に多くの不満や不信を抱いているとの声も出され、一部職場で、議論経過とは異なると言わざるを得ない異動が発生しています。また、職場現実を見た場合、要員が逼迫しているにもかかわらず異動が行われていることや、コロナ禍において本当に今必要な異動なのかとの、声が出されているのも現実です。

申1号団体交渉で議論していきませんが、問題点を明確にし、同じ事象を繰り返すことなく、担う組合員にとってより良い制度とするため、検証運動をつくり出していかねばなりません。

新型コロナウイルス感染症拡大によって、取り巻く情勢が大きく変化しています。テレワークや時差通勤など、働き方を一気に変えざるを得ない状況は、生活も一変させています。この状況について会社は、予想していたよりも早く時代が進んだということであり「変革2027」を前倒し

て推進していくとしています。そして、ポスト・コロナ社会への対応として「成長・イノベーション戦略の再構築」「経営体質の抜本的強化」の2点に注力することを表明しています。

私たちは、これまでも各種施策に対して職場現実を踏まえて真正面から向き合ってきました。そのような中で、「変革2027」のスピードをどのように上げていくのかを見極めることも、取り巻く情勢を見定め、組合員の雇用と生活を守っていかねばなりません。会社と建設的な議論を行い、今後の展望について職場から議論をつくっていく必要があると考えます。

JR東労組運動の基本は職場活動であり、組合員の声です。その職場の声を代表して発言した代議員の発言をしっかりと受け止め、今後団体交渉で精力的に議論をしていきます。

「新生JR東労組運動宣言」のもと、仲間と共に「安全・健康・ゆとり・働きがい」のさらなる向上を目指して奮闘していきますよ!

「皆さんの夏休みが短くなりました。短くても、旅行などに行っていない出を早くしてください」と、先日子どもたちが担任の先生から言われた▼現在、新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあり、多くの人が不安な思いを抱いている。さらには、九州や中部地方で発生した豪雨災害によって被災された方々は、3密を考慮しながら避難生活を送っている▼そのような中、日本政府が前倒しで実施すると発表した「Go To Travel」。感染防止対策と社会経済活動の両立を実現することや観光事業の促進などは重要だ。しかし、今やるべきことは、日本政府や企業は感染拡大防止に全力を尽くすことではないだろうか▼コロナ禍でも職場では、感染の不安を抱えながら懸命になって働いている。その仲間の苦悶に寄り添い、声に耳を傾け、安心して働ける職場と雇用を守ることが、家族の幸せにもつながる。労働組合としての責務である。苦しい時だからこそ仲間と共に乗り越えていこう▼子どもたちと、マスクを外して、楽しい旅行などの思い出をつくれる日が一日も早く来ることを強く願うものである。



(J・F)